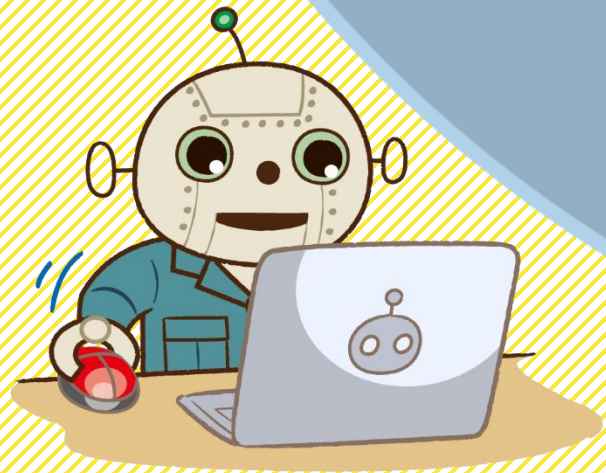


FLEXSCHE Communicator 入門ガイド



目次

FLEXSCHE Communicatorについて

FLEXSCHE Communicator とは 3

システム構成 4

事前準備

環境のセットアップ 5

FLEXSCHE Communicator
設定ユーティリティ 6

管理Webコンソールを開こう 7

体験 – 前半

アカウントを作成しよう 8

プロジェクトを登録しよう 9

プロジェクトサービスを起動しよう 13

体験 – 後半

多人数でのデータ編集 14

別のアカウントでプロジェクトを開こう 18

作業をチェックアウトしてみよう 21

作業をチェックインしてみよう 24

FLEXSCHE Communicator
でのリスケジュール 25

ローカルでリスケジュールしてみよう 26

チェックアウト対象と最小単位 29

工程関連の情報を編集してみよう 31

チェックアウトの取り消しをしてみよう 33

サーバーでリスケジュールしてみよう 35

FLEXSCHE Communicatorの終了

プロジェクトの保存 38

FLEXSCHE Communicatorの終了 39



FLEXSCHE Communicatorとは

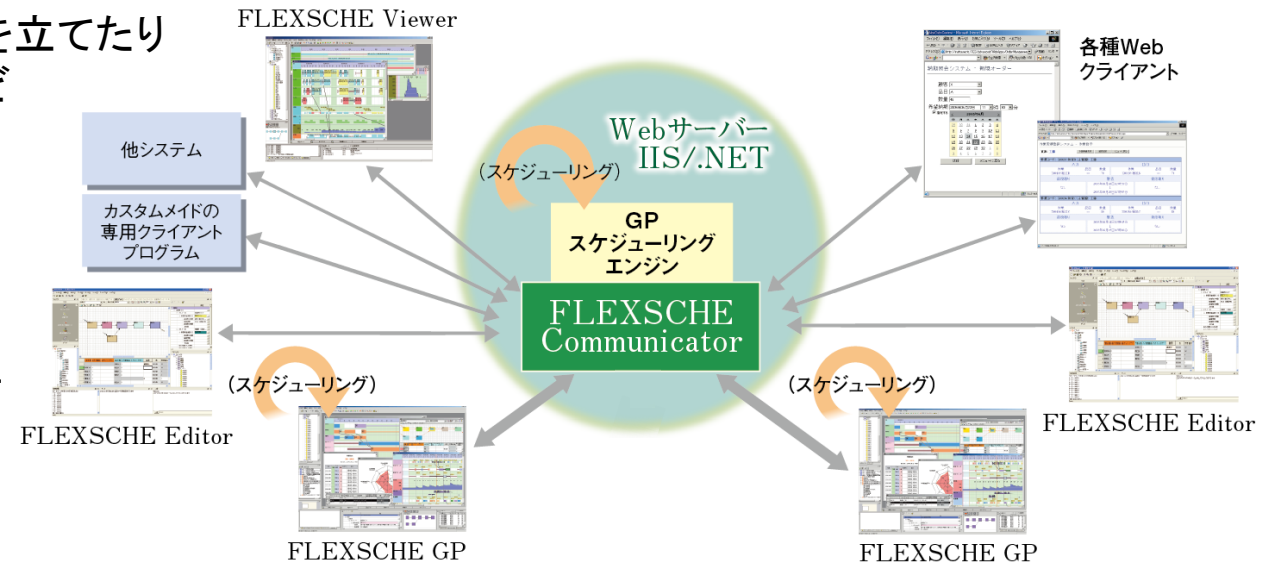
複数の計画担当者が1つのプロジェクトを安全に共有する仕組み

「複数の計画担当者が同一プロジェクトに対して同時に計画調整を行う」
場合に

ある担当者が編集したデータを参照しながら他の担当者が計画を立てたり
データを編集している間は他の担当者からの編集を禁止するなど

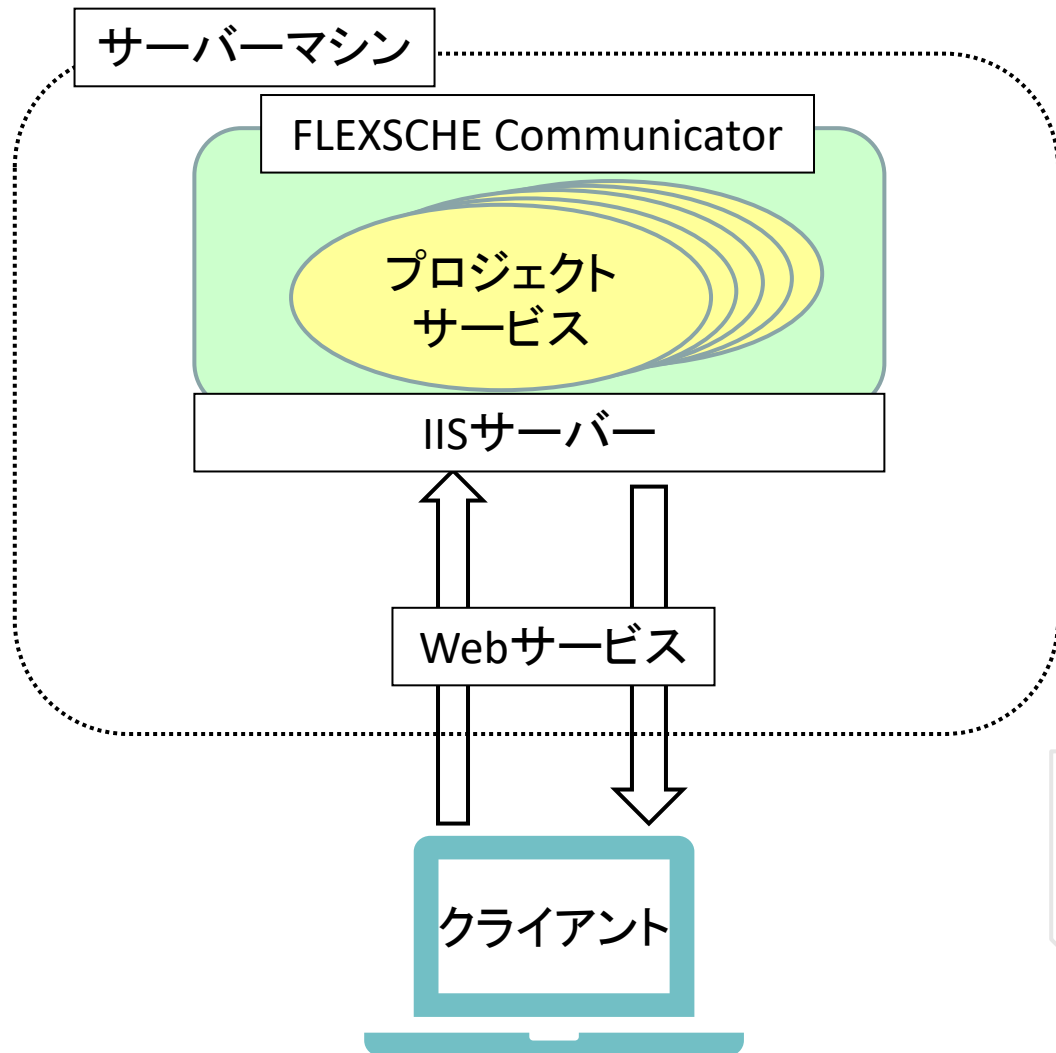
同時にデータを編集したり、担当者間で計画作業を調整する
といったような、複数の担当者間で連携が必要な状況において

Webサーバーを介してプロジェクトデータを制御することで
リアルタイムで同時に複数クライアントからの操作を可能にします



システム構成

IISサーバー上のASP.NETアプリケーションとして動作します。



クライアントの構成

- FLEXSCHE GP
- FLEXSCHE Editor
- FLEXSCHE Communicatorクライアント
- Webサービスクライアント

※本入門ガイドでは便宜上クライアント側とサーバー側を同じPCで操作して説明を行いますが、一般にはそれぞれ別のPCで操作を行うものとなります、あらかじめご了承ください。

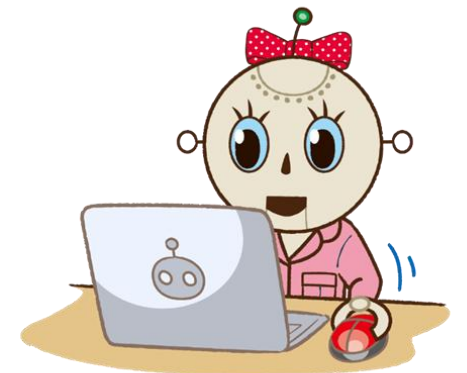
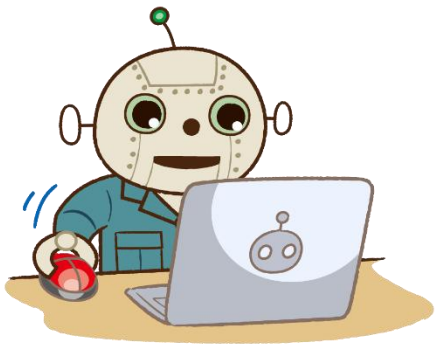
Note

プロジェクトサービスとは、FLEXSCHE Communicator上で動作するサービスです。
1つのプロジェクトサービスは、1つのプロジェクトのデータを保持し
クライアントからのデータの追加や変更や削除などの要求に対してリアルタイムに応答します。
また、サーバー上でリスケジュールするためには、プロジェクトサービスが動作している必要があります。

環境のセットアップ

FLEXSCEインストール手順(<https://www.flexsche.com/support/information/install/>)

ページ内「FLEXSCHE Communicator」タブの案内に沿ってセットアップを行います



FLEXSCHE Communicator設定ユーティリティ

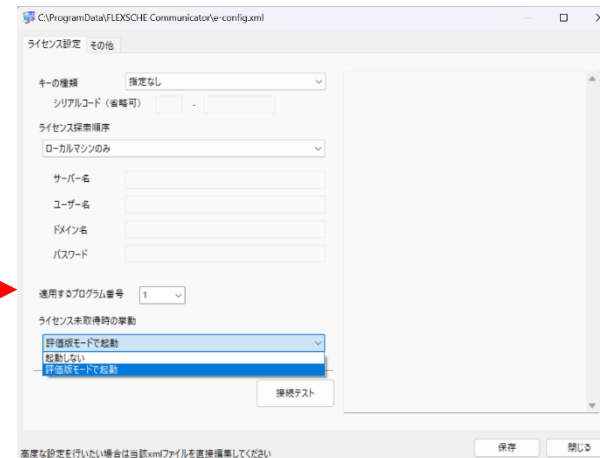
Windowsのスタートメニューから「すべてのアプリ」を選択し
FLEXSCHE Communicator→設定ユーティリティと開き
「全体設定」を選択します。

※今回は評価版モードで起動します

FLEXSCHE Communicator評価版とは

- 同時に起動するプロジェクトサービス数が一つ
- プロジェクトに登録できるデータ量はFLEXSCHE GP評価版と同様

※ライセンスをご購入する前に機能を評価するためのものです。
業務にご使用いただくことはできません。



Note

設定ユーティリティについて

FLEXSCHE本体やFLEXSCHEプロジェクト毎の様々な設定を行うためのツールです。
今回はCommunicator用の設定ユーティリティを起動して設定を行っています。

ライセンス設定について以下の通り設定します。

キーの種類: 指定なし

ライセンス探索順序: ローカルマシンのみ

適用するプログラム番号: 1

ライセンス未取得時の挙動: 評価版モードで起動

※接続テストは失敗となりますが問題ありません。

管理Webコンソールを開こう

管理Webコンソールから先ほどセットアップしたCommunicatorサーバーを起動しましょう。

6ページと同様に

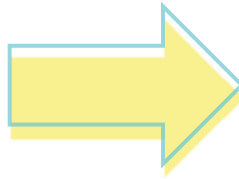
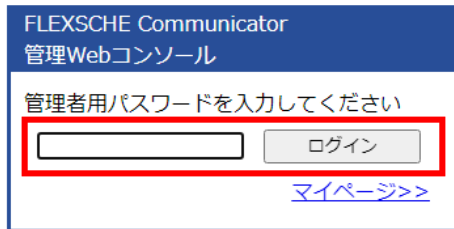
「すべてのアプリ」>「FLEXSCHE Communicator」から
「FLEXSCHE Communicator 管理ツール」を起動します。
もしくはブラウザから以下のURLへアクセスします。

<http://localhost/FSCommunicator/admin/>

Note

管理Webコンソールでは以下の操作ができます

- Communicatorの起動・停止
- ユーザー/プロジェクト管理
- サーバーの自動起動



アクセス後、管理者用パスワードを入力してログインします。
(初期パスワード: admin)



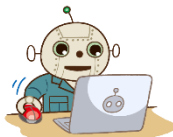
この時点ではサーバーは停止しています。
起動にはライセンス設定が必要となるため
前ページでの設定を行った後に「起動」ボタン
を押して起動します。

アカウントを作成しよう

FLEXSCHE Communicatorの複数クライアントでの操作を体験するために、任意のユーザーを2人分登録しましょう。

管理Webコンソールでサーバーを起動して、アカウント作成を選択してください。(ID・パスワードのみでOK)
その後、以下の通りにUser1とUser2を作成しましょう。

ID: User1
パスワード:user1



ID: User2
パスワード:user2



FLEXSCHE Communicator 管理Webコンソール

[サーバー管理]

サーバーの起動と停止

管理者設定

サービス一覧

バージョン情報

[アカウント管理]

アカウント一覧

アカウント作成

ログイン履歴

[プロジェクト管理]

プロジェクト一覧

操作履歴

スケジュールリングログ

ログアウト

アカウント作成

アカウントを新規に作成します。

ID	
パスワード	
再入力	
氏名	
所属	
メールアドレス	
電話	

作成

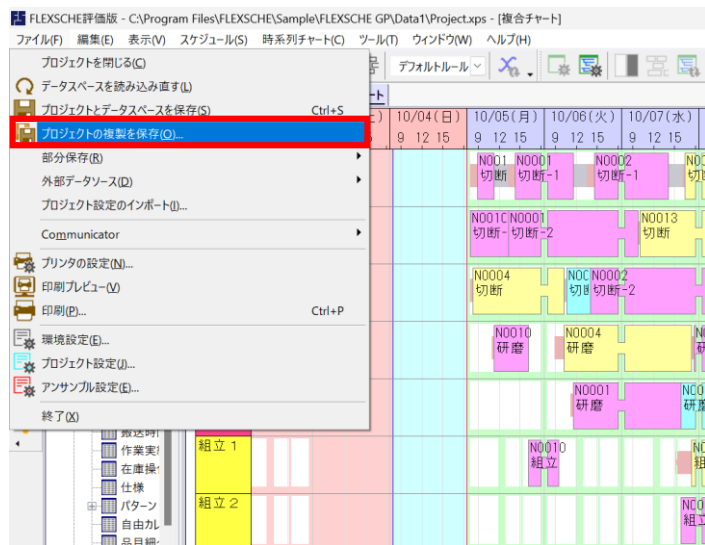
Note

ID・パスワードのほかに
「氏名」「所属」「メールアドレス」「電話番号」
なども登録できます。
※今回は必須項目のIDとパスワードのみで
アカウントを作成しています。

プロジェクトを登録しよう(1.登録用プロジェクトの作成)

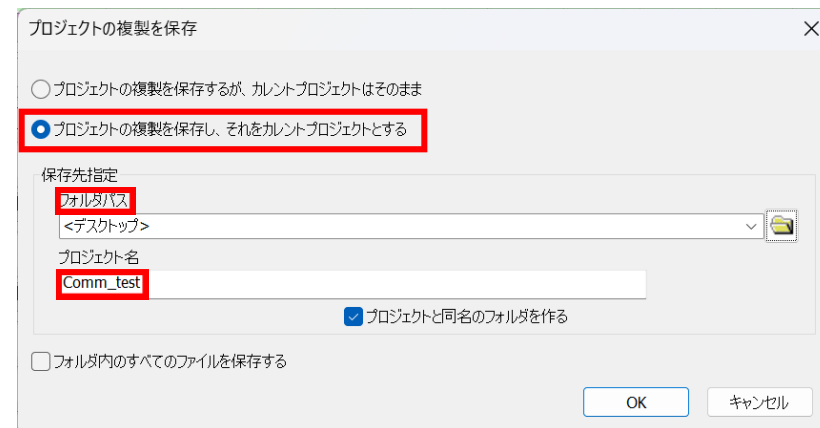
FLEXSCHE Communicatorで操作するプロジェクトをサーバーに登録しましょう。
本入門ガイドではサンプルプロジェクトを用いて、実際に複数クライアントから操作する様子を体験いただきます。

1-1.FLEXSCHE GPを起動し、サンプル集よりプロジェクト「Data1」を開き
「ファイル」→「プロジェクトの複製を保存」を選択します。



1-2.「プロジェクトの複製を保存し、それをカレントプロジェクトとする」を選択します。
保存先のフォルダパスとプロジェクト名(今回はComm_testとします)を設定し
「OK」で新しいプロジェクトを作成します。

※サンプルデータを直接登録すると中身が上書きされるので、必ず複製を作成しましょう

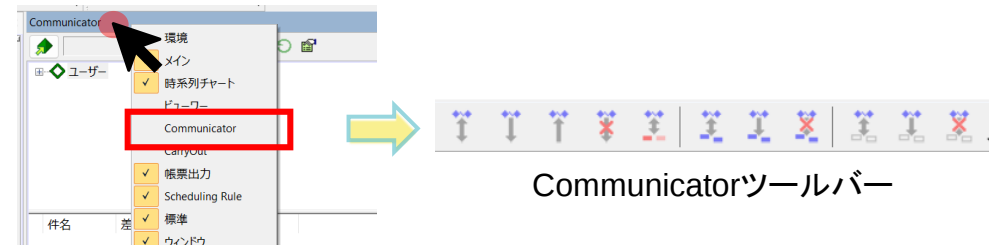


プロジェクトを登録しよう(2.プロジェクト設定の変更)

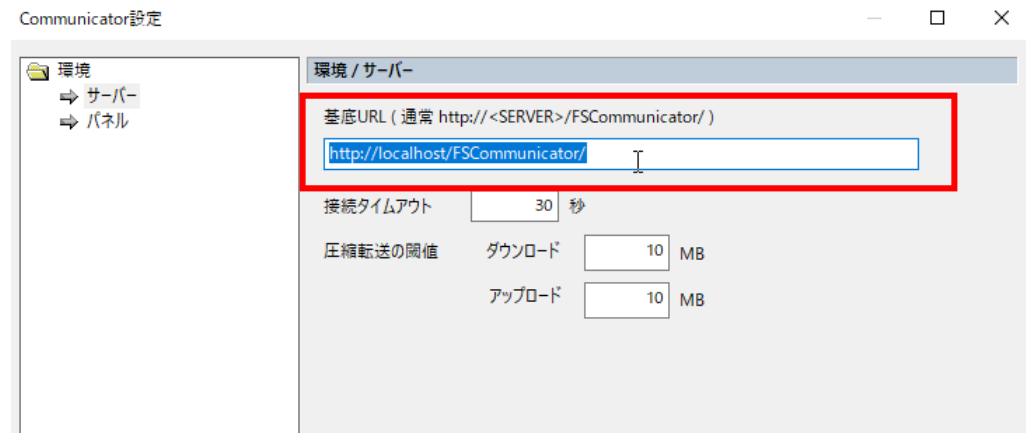
先ほど複製を作成したプロジェクトをCommunicator環境にて使用するための設定を行います。

2-1.「表示」メニューから「Communicatorパネル」を選択してCommunicatorパネルを表示させます。

2-2.Communicatorパネル上部を右クリックして
ポップアップメニューの中から上部の(※)「Communicator」を選択すると、
Communicatorツールバーが表示されます。
※「Communicator」が二つあるうちの上側



2-3.「ツール」メニューから「FLEXSCHE Communicator」を選択して「設定」を選択して基底URLを設定します。

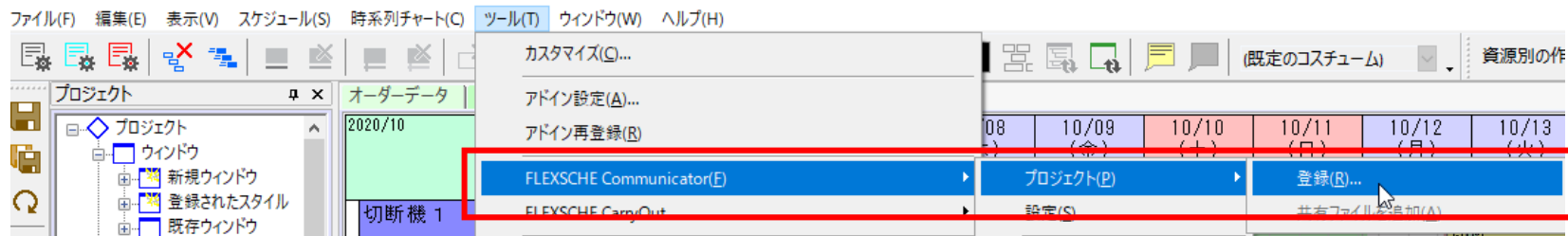


基底URL <http://127.0.0.1/FSCommunicator/>
(= <http://localhost/FSCommunicator/>)

※今回クライアント側とサーバー側を同じPCで操作していますが
別マシンからサーバーへ接続する場合は
“localhost”の部分を適切なサーバー名に変更する必要があります

プロジェクトを登録しよう(2.プロジェクト設定の変更)

2-4. 「ツール」→「FLEXSCHE Communicator」→「プロジェクト」→「登録」を選択してプロジェクト登録画面へ進みます。

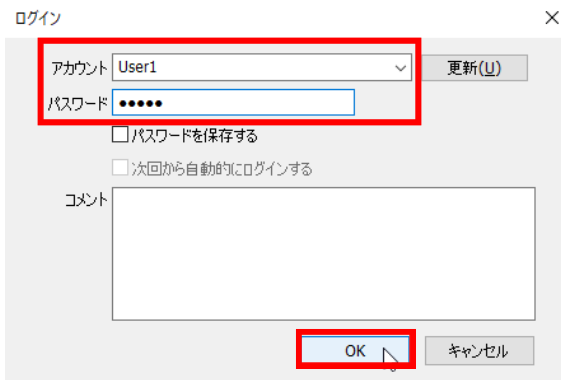


2-5. ログインを求められるので、
User1でログインします。
(「更新」を押すと候補が選択できます)

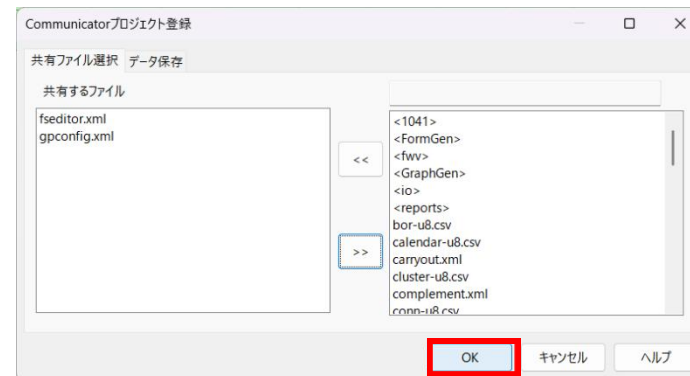
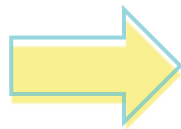
アカウント名: User1

パスワード: user1

を入力してOKを押してください。



2-6. サーバーに登録する設定ファイルを選択できます。
今回はそのままOKで登録します。



プロジェクトを登録しよう(3.登録したプロジェクトの確認)

管理Webコンソールを開いて先ほど登録したプロジェクトを確認してみましょう。

FLEXSCHE Communicator 管理Webコンソール

[サーバー管理] **サーバーの起動と停止**
サーバーの起動と停止
管理者設定
サービス一覧
バージョン情報
[アカウント管理]
アカウント一覧
アカウント作成
ログイン履歴
[プロジェクト管理]
プロジェクト一覧
操作履歴
スケジューリングログ
ログアウト

サーバーの起動と停止
Communicatorサーバーの稼働状態を表示/変更します。
サーバーの稼働状態 **動作中**
自動的に起動する いいえ

管理者設定
登録情報
パスワード *****
メールアドレス
SMTPサーバー
デストメール送信

FLEXSCHE Communicator 管理Webコンソール

[サーバー管理] **プロジェクト一覧**
サーバーの起動と停止
管理者設定
サーバー情報
[アカウント管理]
アカウント一覧
アカウント作成
ログイン履歴
[プロジェクト管理]
プロジェクト一覧
操作履歴
スケジューリングログ
ログアウト

プロジェクト一覧
Communicatorサーバーに登録されているプロジェクトの一覧を表示します。各プロジェクトをクリックすると詳細ページに移動します。

ID	プロジェクト名	プロジェクトサービス	登録日時
☐ 1	Comm_test	停止	2026/05/29 18:36

プロジェクトサービスをまとめて起動
プロジェクトサービスをまとめて停止
プロジェクトをまとめて削除

FLEXSCHE Communicator 管理Webコンソール

[サーバー管理] **プロジェクト詳細情報**
サーバーの起動と停止
管理者設定
サーバー情報
[アカウント管理]
アカウント一覧
アカウント作成
ログイン履歴
[プロジェクト管理]
プロジェクト一覧
操作履歴
スケジューリングログ
ログアウト

プロジェクト詳細情報
登録情報
変更を行う場合は編集ボタンをクリックしてください。

プロジェクト名	Comm_test
プロジェクトID	1
プロジェクトGUID	{3caa9ad3-5642-42dc-b7ea-b228acd679c5}
登録日時	2026/05/29 18:36
FDSSデータ形式	XMLテキスト
バックアップ容量	500MB (0 Bytes Used)
並列処理	

稼働状態と操作
データ共有
チェックアウト なし
ファイル共有

ファイル名	チェックアウト
☐ fseditor.xml	
☐ gpconfig.xml	
☐ project.xps	

選択したファイルの共有を解除する
選択したファイルのチェックアウトを解除する
ストレージ
ストレージ名 更新日時 チェックアウト
選択したストレージの共有を解除する
選択したストレージのチェックアウトを解除する
プロジェクトサービス
サービスの状態 停止
部分チェックアウト なし
上級オプション
EDIFコントロール
インポート グループ
エクスポート グループ
FLEXSCHE CarryOut

プロジェクトの削除

3-2.プロジェクト名をクリックするとプロジェクトの詳細情報を確認することができます。

3-1.管理コンソールのプロジェクト管理>プロジェクト一覧を見ると先ほど登録されたプロジェクトがプロジェクト一覧に載っていることが分かります。

プロジェクトサービスを起動しよう

プロジェクトサービス(4ページ参照)の「サービスの状態」が停止になっているので「起動」を押してサービスを起動させましょう。



サービスを起動することで

- ・サーバー上でのリスケジュール
 - ・クライアントからのデータの追加や変更、削除などの要求に対してのリアルタイムな応答
 - ・プロジェクト内データに対して多人数でのデータ編集
- などの操作が可能になります。

多人数でのデータ編集

複数人が同時にデータを編集する際に競合が発生するのを防ぐため、Communicatorでは「チェックアウト」「チェックイン」という機能が用意されています。
「チェックアウト」「チェックイン」を用いた排他制御によって安全にデータ編集を行う必要があります。

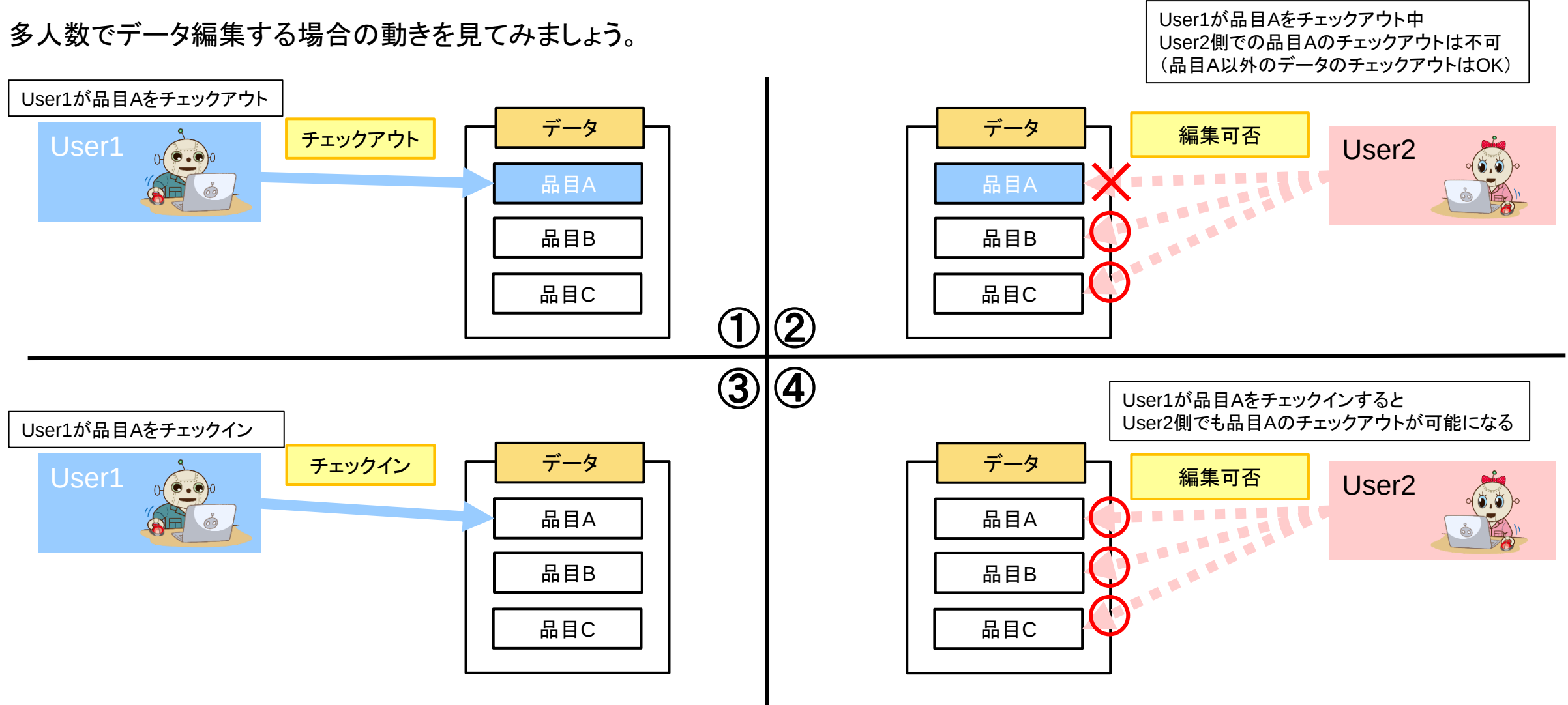
対象データを編集するために排他制御をかけることを**チェックアウト**

編集した結果をサーバー上に反映させることを**チェックイン**と言います。



多人数でのデータ編集

多人数でデータ編集する場合の動きを見てみましょう。



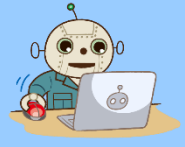
データの表示・参照はチェックイン・アウトの状態にかかわらず全データで可能
チェックアウト中のデータの変更が反映されるのは該当データのチェックイン後から

多人数でのデータ編集

登録したプロジェクトをUser1で利用するため、最新の内容を取得しましょう。

本入門ガイドでは複数ユーザーでの操作を行います。
凡例として右のように
User1側の画面の説明を行う場合は青色の背景
User2側の画面の説明を行う場合は赤色の背景
をそれぞれ用いて行います。

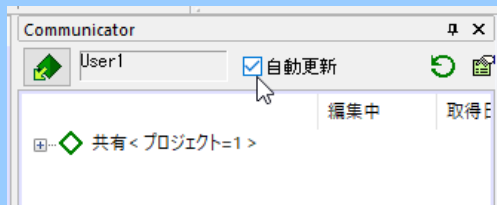
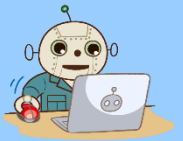
User1



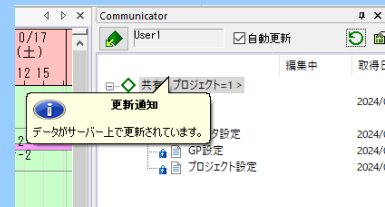
User2



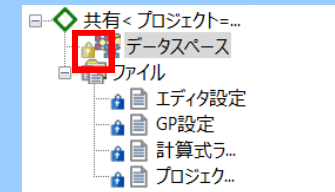
User1



別のクライアントからの更新通知を
自動で表示できるように
自動更新にチェックを入れておきましょう



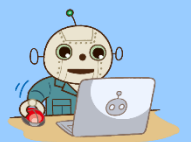
データが更新されると
更新通知がクライアントに送られます



鍵マークが黄色くなっている時は
サーバー上により新しいデータが
存在することを示しています

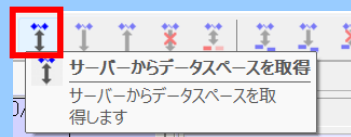
多人数でのデータ編集

User1



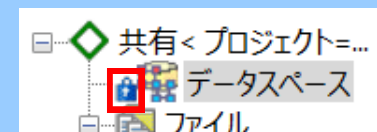
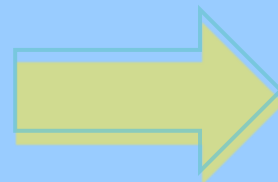
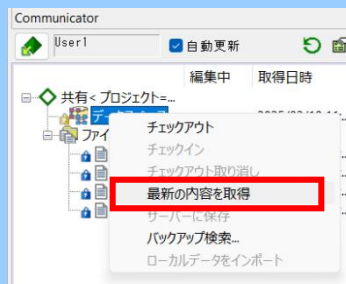
最新データの取得方法

ツールバー内「サーバーからデータスペースを取得」をクリック



または

Communicatorパネル内「データスペース」を右クリックして
表示されるポップアップから「最新の内容を取得」をクリック



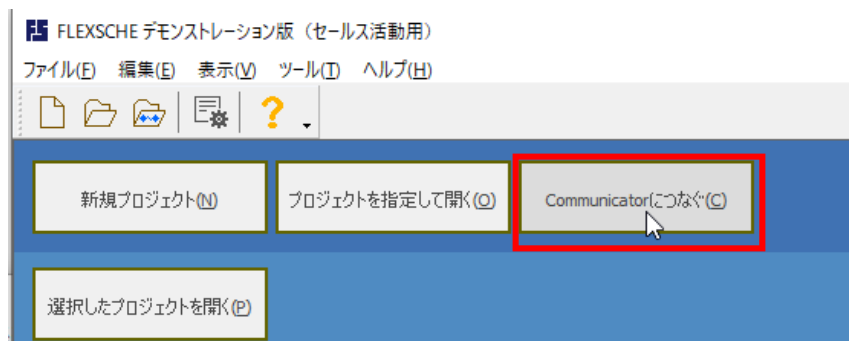
データが最新になると
鍵マークが青色に変わります

別のアカウントでプロジェクトを開こう

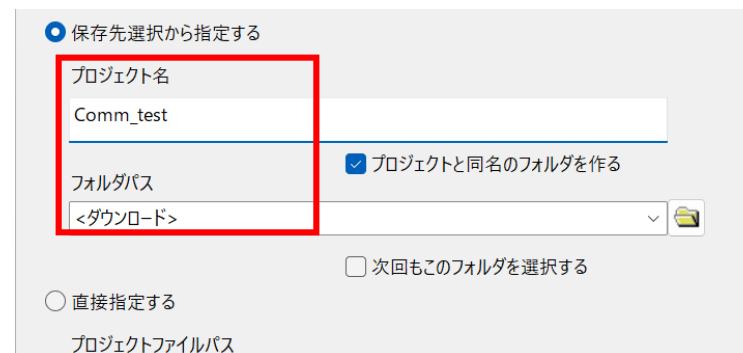
複数のアカウントでプロジェクトデータを編集する様子を体験しましょう。

別途User2でプロジェクトを開いてみましょう。

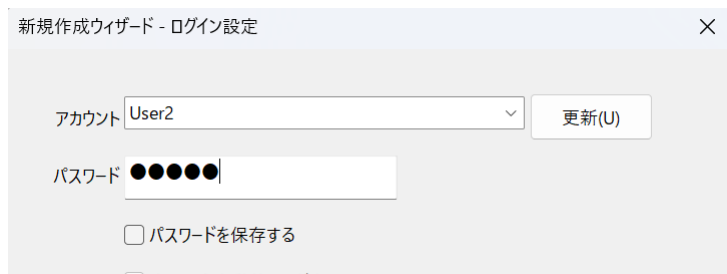
1. FLEXSCHEを新たに起動し、
起動画面から「Communicatorにつなぐ」を選択



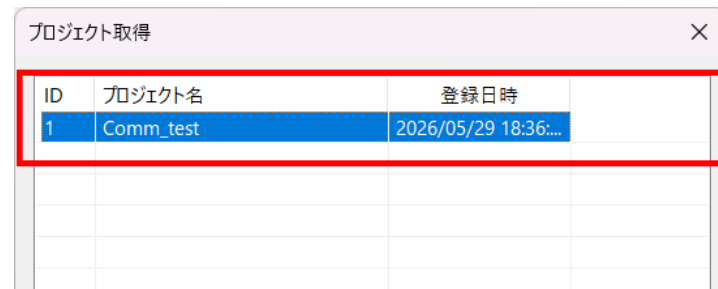
2. プロジェクト名と保存先フォルダパスを指定
※保存先は複製を保存した場所と異なる場所を指定してください



3. User2でログイン
アカウント名 : User2
パスワード : user2



4. 指定したプロジェクトを選択して「OK」を押して接続



別のアカウントでプロジェクトを開こう

これでUser2はUser1と同時に同じプロジェクトを開くことができました。

(2-1 2-2の手順をUser2側でも行い、Communicatorパネル、ツールバーを表示させておきます
また、User2側でも自動更新のチェックをオンにしておきましょう。)

User2



The screenshot displays the FLEXSCHED DEMONSTRATION software interface. The main window shows a Gantt chart with tasks and resources. The Communicator panel on the right shows the user 'User2' with the '自動更新' (Auto Update) checkbox checked. The bottom status bar shows the user 'User2' and the project 'プロジェクトサービス'.

Communicator

User2

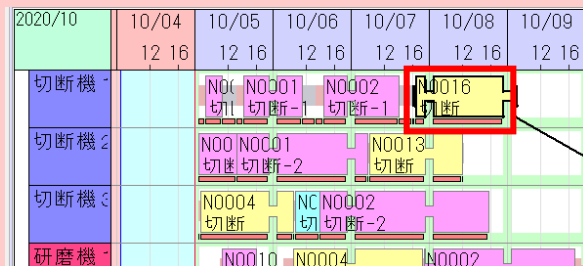
☒ 自動更新

編集 編集中 取得日時 更新日時

別のアカウントでプロジェクトを開こう

User2側でUser1と同じプロジェクトを開きましたが、Communicatorのプロジェクトとローカルのプロジェクトでは挙動が異なります。

User2

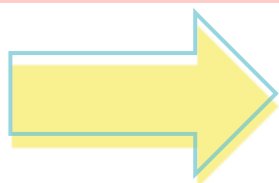


ガントチャート上の作業を動かそうとしてみます。

試しにN0016 切断の作業を選択してドラッグしようとしてみると作業は固定されていて動かないことが分かるかと思います。

これは、User2ではこの作業の編集権を取得していないためです。
(薄い赤いバーが表示されています)

サーバー上のデータを編集するためにはデータの編集権を取得(チェックアウト)する必要があります。
(チェックアウトについては15ページを参照)



User2側で編集できるようにするために、次ページからの手順で作業をチェックアウトしてみましょう

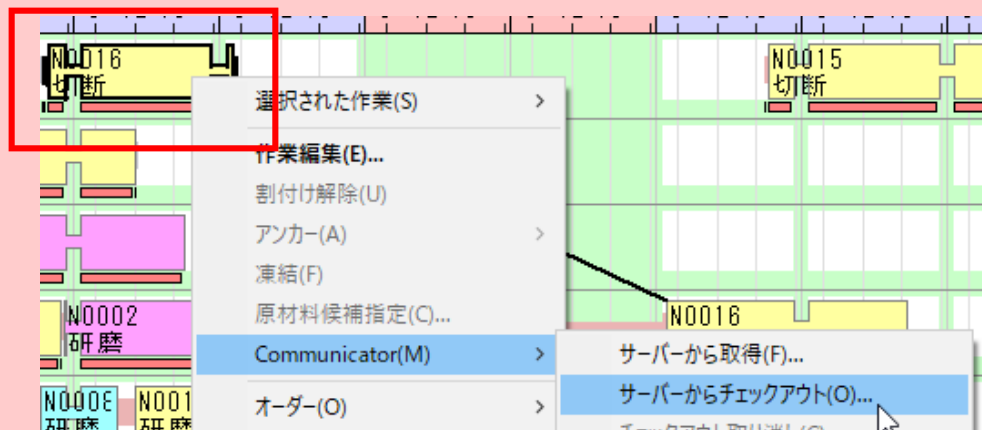
作業をチェックアウトしてみよう

User2のプロジェクトで作業N0016:切断をチェックアウトしてみましょう。

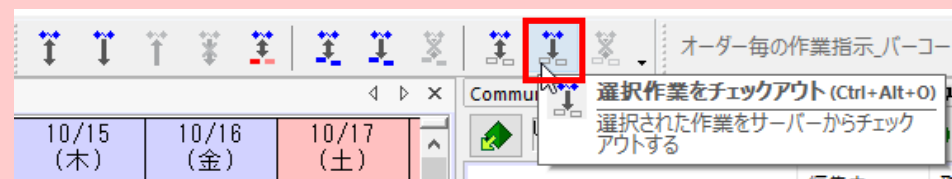
User2



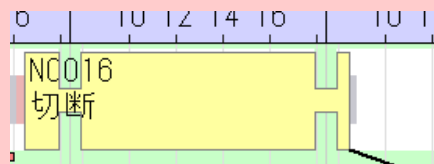
ガントチャート上の作業を右クリックして
Communicator > 「サーバーからチェックアウト」を選択



作業を選択後、ツールバー上の
「選択作業をチェックアウト」を選択



または



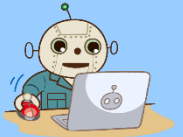
チェックアウトが成功すると作業下のバーが消えました。
バーが消えている状態はUser2
User2での編集が可能となりました。

作業をチェックアウトしてみよう

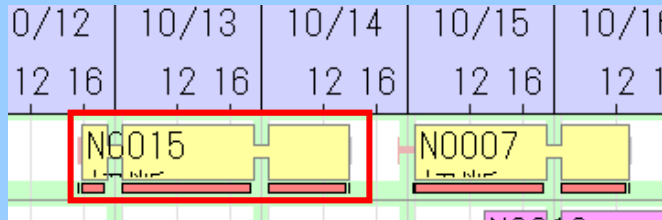
別々のアカウントで異なる操作をするとどのような挙動を示すのか見てみましょう。

User1のプロジェクトで作業N0015: 切断をチェックアウトし、
User2のプロジェクトで全データのステータスを更新してみましよう。

User1



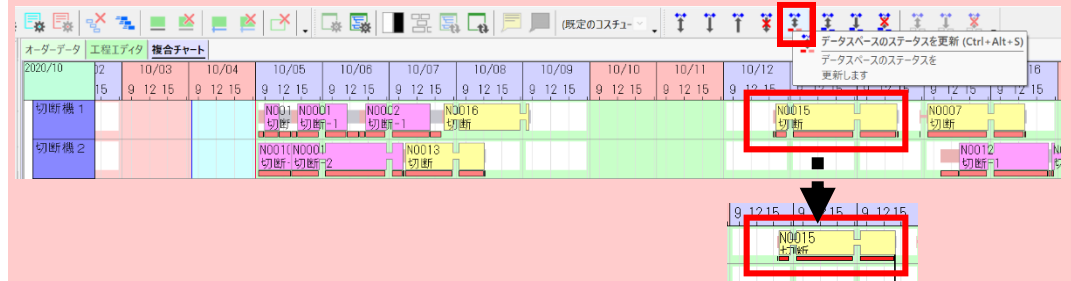
①N0015:切断をチェックアウト



User2



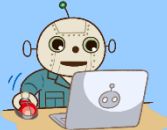
②ツールバー上の「データベースのステータスを更新」を選択



③作業N0015のバーの赤が濃くなりました

作業をチェックアウトしてみよう

#21でUser2がチェックアウトした作業(N0016:切断)を同様の手順でUser1側でチェックアウトしようとする
とメニューがグレイアウトしてチェックアウトできません。
これは#22でUser1が作業N0015:切断をチェックアウトしたタイミングで暗黙にステータスの更新処理が走るためです。

User1

N0016:切断はUser2がチェックインするまで編集できない見た目になります。
(バーの色が濃い赤色になっており、他のクライアント(User2)でチェックアウト中ということを表しています。)

2020/10	10/03	10/04	10/05	10/06	10/07	10/08	10/09	10/10	10/11	10/12	10/13	10/14
	12 16	12 16	12 16	12 16	12 16	12 16	12 16	12 16	12 16	12 16	12 16	12 16
切断機 1			N0001 切断	N0001 切断-1	N0002 切断-1	N0016 切断					N0015 切断	
切断機 2			N0001 切断	N0001 切断-2		N0013 切断						
切断機 3			N0004 切断	N0002 切断-2								
研磨機 1			N0010 研磨	N0004 研磨		N0002 研磨						

選択された作業(S)

作業編集(E)...
割付け解除(U)
アンカー(A)
凍結(F)
代替ジョブを保護
原材料候補指定(C)...
Communicator(M)
オーダー(O)
作業パネルへ追加(P)
新規チャート(N)

サーバーから取得(F)...
サーバーからチェックアウト(O)...
チェックアウト取り消し(C)...

N0013 切断

作業がどのクライアントからもチェックアウトされていない時は、タスクバーの直下に薄い赤いバーが表示されます。

N0016 切断

他のクライアントによってチェックアウトされている場合には濃い赤いバーが表示されます。

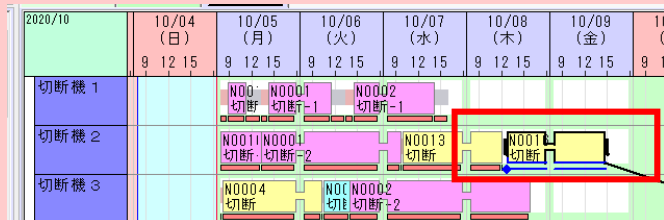
作業をチェックインしてみよう

User2のプロジェクトで作業N0016:切断を移動してチェックインすると、User1のプロジェクトに更新通知が送られることを確認しましょう。
同様に、User1のプロジェクトで作業N0015:切断をチェックインするとUser2のプロジェクトに更新通知が送られることを確認しましょう。
※「最新の内容を取得」とすると編集集中のレコードを上書きするかを聞かれますが「いいえ」を選択してください

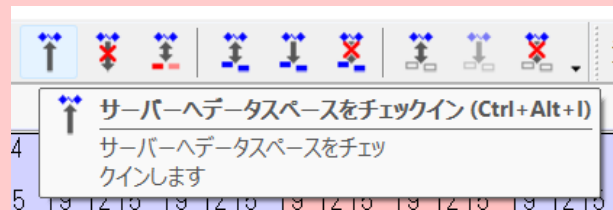
User2



①作業N0016:切断を作業N0013:切断の後ろに移動させる



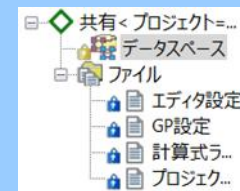
②ツールバーから「サーバーヘデータスペースをチェックイン」を選択



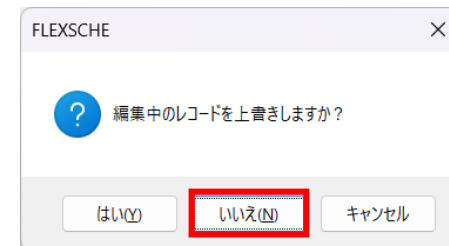
User1



③更新通知が届く



このタイミングで
#16で説明したように
鍵マークが黄色くなるので
最新データを取得してみましょう



FLEXSCHE Communicatorでのリスケジュール

FLEXSCHE Communicatorでのリスケジュールの方法は大きく分けて以下の2種類があります。

・ローカルリスケジュール

クライアントの手元でリスケジュールする方法

チェックアウトする対象データを選んでリスケジュールすることができるので必要に応じて結果を確認することが可能
チェックアウトする対象範囲としては次の3つがある

- ・全データ
- ・全オーダーと全作業
- ・現在チェックアウト中の作業

※場合によって他のクライアントによって編集、リスケジュールされた結果と矛盾が生じるため調整が必要になる

・サーバーリスケジュール

サーバー上でリスケジュールする方法

複数クライアントで編集したデータをもとに全体調整をしたい場合などに行う

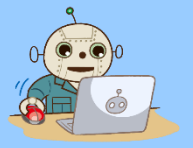
Communicatorサーバーに指示を出すことでリスケジュールできるので、
夜間バッチで実績などのデータを取り込んで自動でリスケジュールするといったことも可能

※サーバーリスケジュールを実行するには全作業/全オーダーがチェックイン済みでなければならない

ローカルでリスケジュールしてみよう

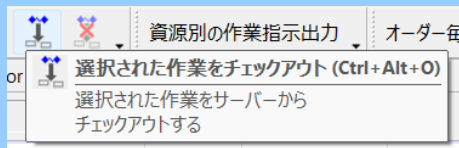
User1のプロジェクトでオーダーN0015から展開されている一連の作業をチェックアウトし、
作業N0015: 切断を作業N0016の後ろに移動してからチェックアウト中の作業を対象にローカルでリスケジュールをしてみましょう

○ User1

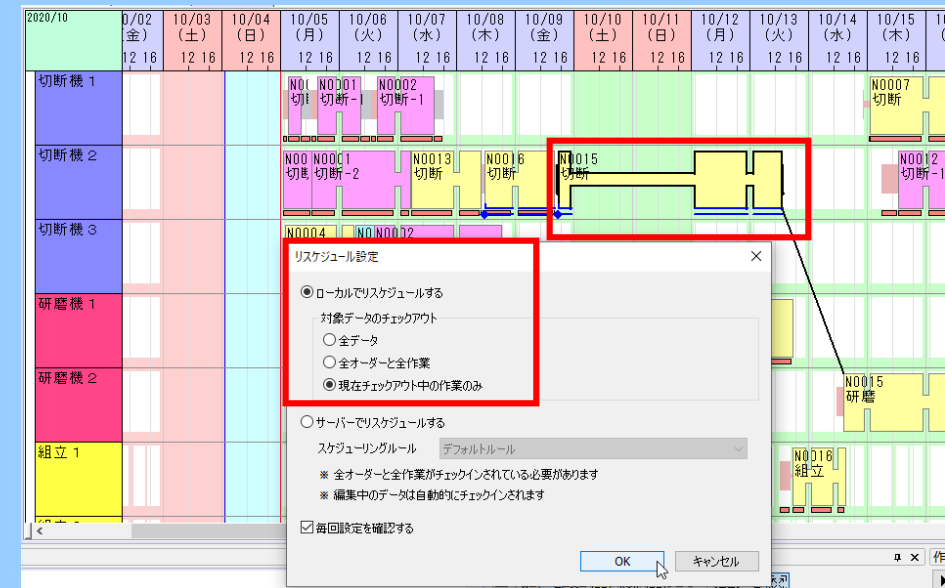


①オーダーN0015の作業上でホイールクリック

すると一連の作業が選択されるので、「選択された作業をチェックアウト」を選択



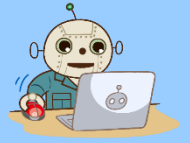
②作業N0015: 切断を作業N0016の後ろに移動した後、
リスケジュールボタンをクリックし、
「ローカルでリスケジュール」>「現在チェックアウト中の作業のみ」
にチェックしてOKを押します。



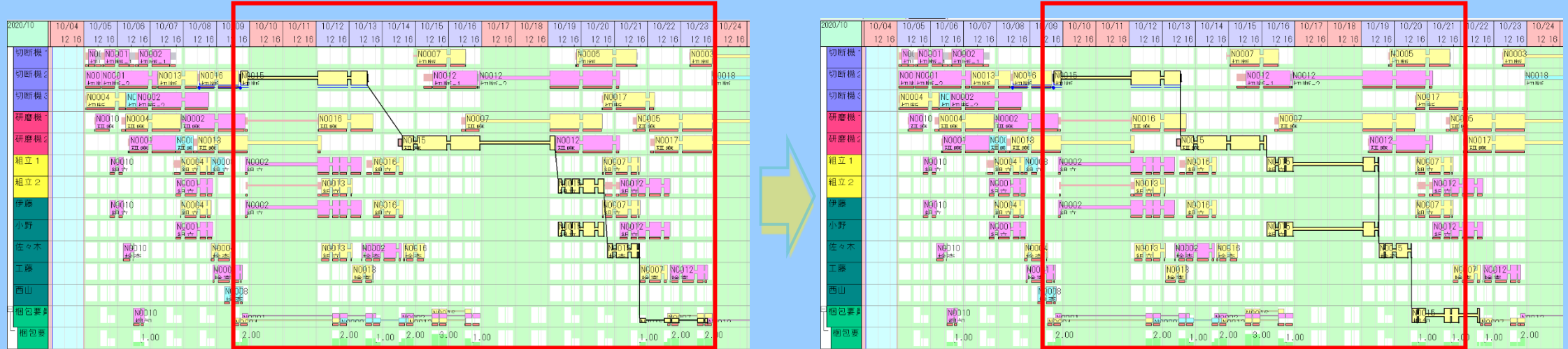
ローカルでリスケジュールしてみよう

ローカルでリスケジュールした結果を確認し、チェックインしてみましょう。

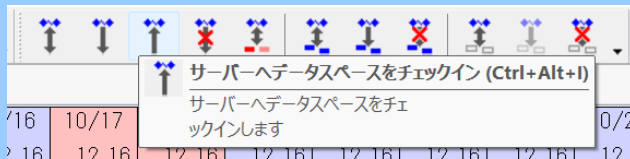
User1



①ローカルでリスケジュールした結果、以下になりました。



②「サーバーヘデータスペースをチェックイン」を押し、リスケジュールした結果でチェックインします。

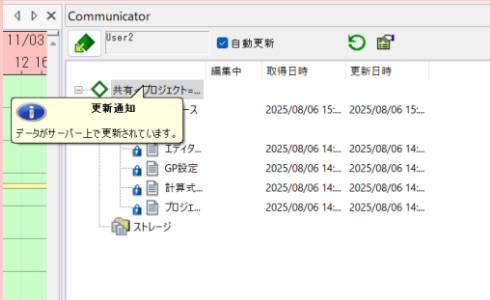


ローカルでリスケジュールしてみよう

User1側でチェックインした結果をUser2で確認してみましょう。

User2

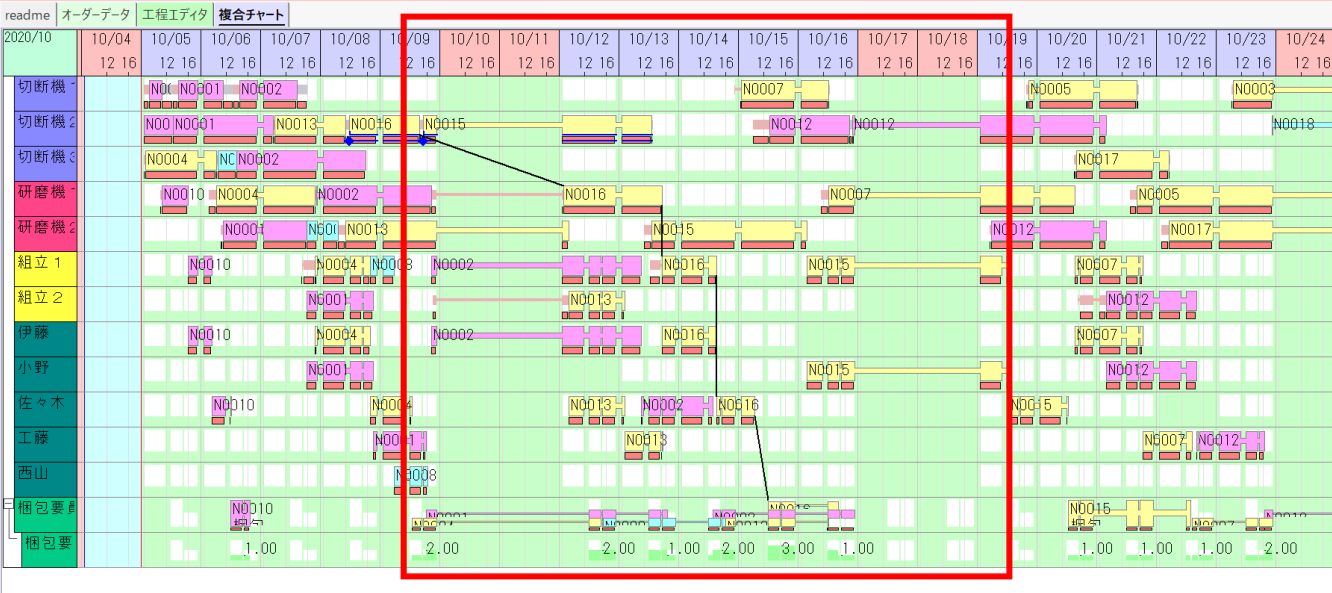




①更新通知が届きます。



②データスペースを更新します。

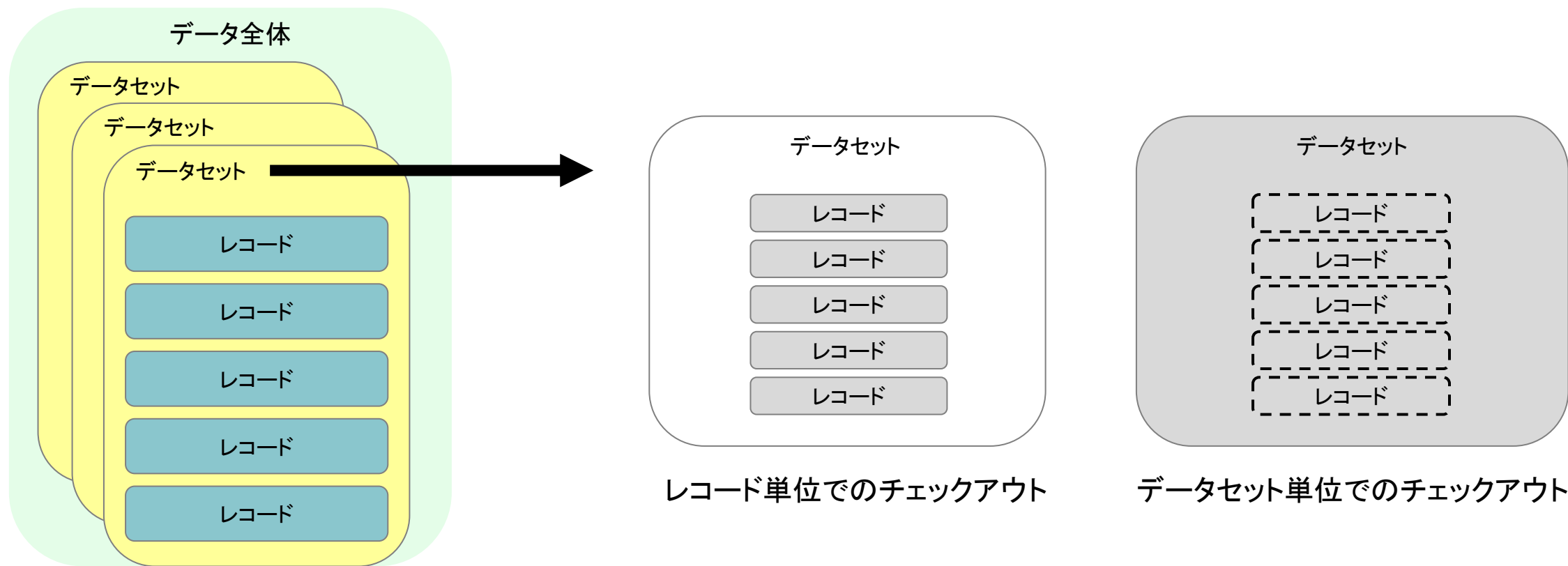


③User1側でリスケジュールした結果と同じになっています。

チェックアウト対象と最小単位

データチェックアウトの単位は

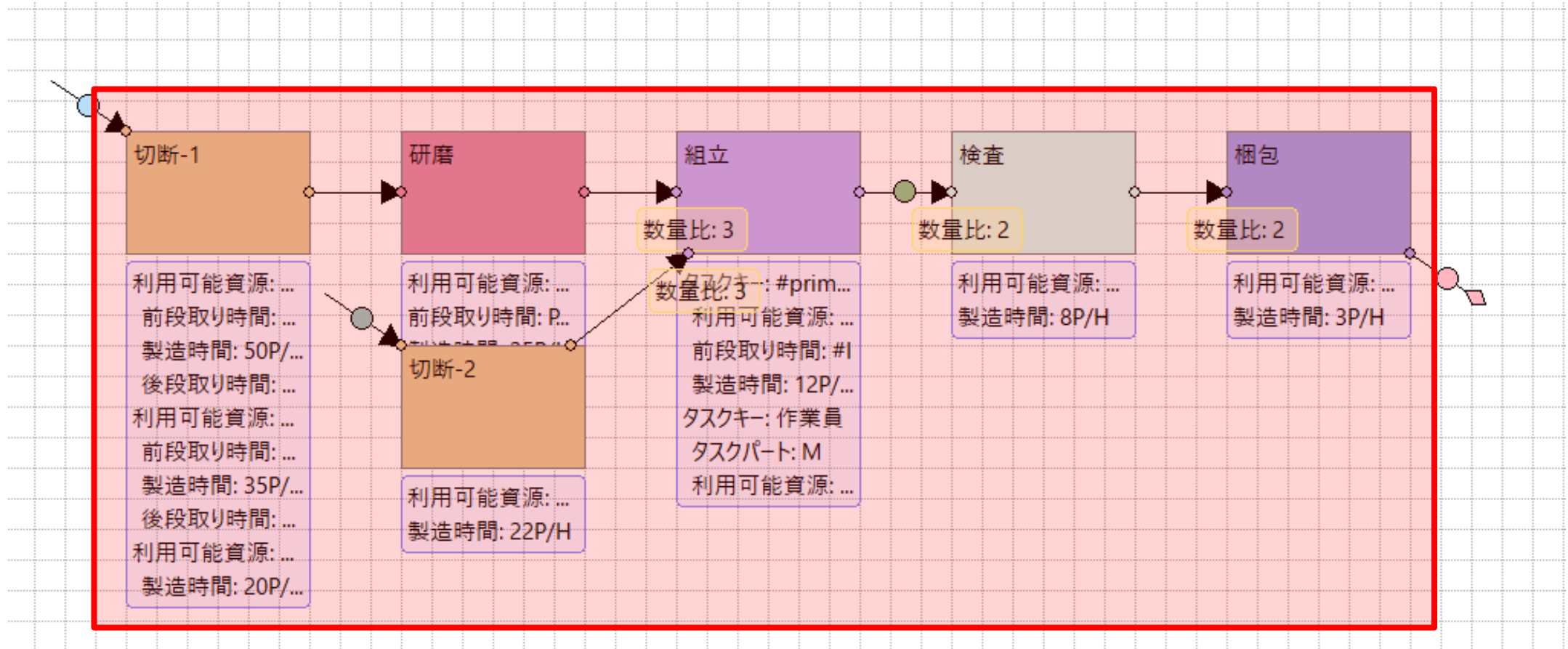
データ全体 > データセット > レコード の順に細かく(小さく)なります。



チェックアウト対象と最小単位

前ページでは最小単位でチェックアウトが可能と説明しましたが、そうではないものもあります

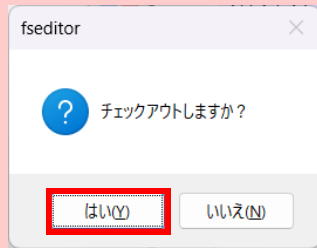
例えば工程はレコード単位が最小ですが、工程グラフ配下の工程をまとめてチェックアウトします(下図赤枠内の範囲)



工程関連の情報を編集してみよう

User2のプロジェクトで工程エディタを開き、
梱包工程の資源表で製造時間を編集してみましょう

User2

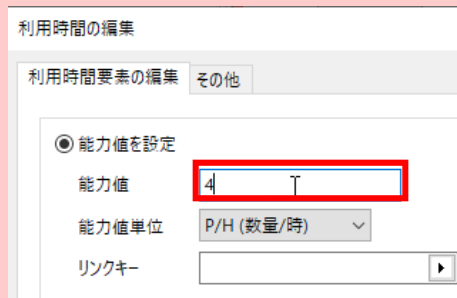


①工程グラフAの梱包工程の資源表の能力値の変更を行おうとする

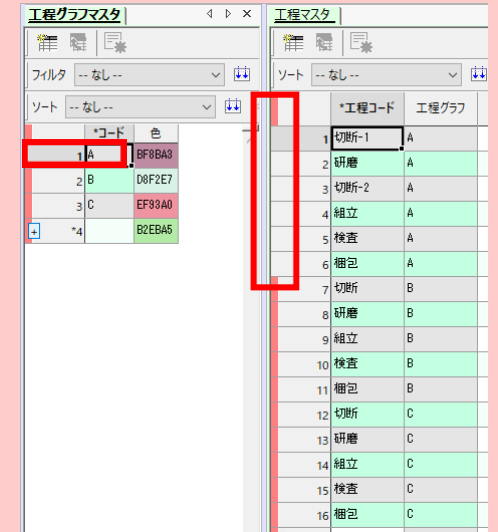
チェックアウトが必要か聞かれるので「はい」を選択

梱包工程を含む工程グラフ単位でチェックアウトが行われる

能力値を「4P/H」に変更



②プロジェクトパネル、工程グラフマスタや工程マスタを確認しましょう



工程グラフマスタや工程マスタを開き、対象レコードが
チェックアウトされている様を確認します

Note

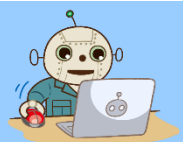
FLEXSCHE Editorのテーブルにおいても、
レコードがどのクライアントからもチェックアウトされていない時は行の左端に薄い赤い帯が表示されます。
他のクライアントによってチェックアウトされていると、濃い赤い帯が表示されます。レコードをチェックアウトしているクライアントでは赤い帯は非表示になります。

プロジェクトパネルの [データ] に表示されるテーブルのレコードがどのクライアントからもチェックアウトされていない時は、アイコンに△が表示されます。
他のクライアントによってチェックアウトされていると、アイコンに×が表示されます。レコードをチェックアウトしているクライアントでは通常のアイコンが表示されます。

工程関連の情報を編集してみよう

User1のプロジェクトにおいても工程マスタを操作してみましょう。
工程マスタを開き、完成品Bの梱包にコメントを設定してみましょう。

User1



オーダーデータ 工程エディタ 複合チャート 工程マスタ					
	*工程コード	工程グラフ	正式名称	色	コメント
1	切断-1	A		E4CC98	
2	研磨	A		DC8EAA	
3	切断-2	A		E4CC98	
4	組立	A		C4B4FA	
5	検査	A		D4F6ED	
6	梱包	A		A3A4EA	
7	切断	B		E4CC98	
8	研磨	B		DC8EAA	
9	組立	B		C4B4FA	
10	検査	B		D4F6ED	
11	梱包	B		A3A4EA	

①「データスペースのステータスを更新」して最新のデータに更新した後
工程マスタを開き、データを確認してみると
先ほどUser2でチェックアウトした工程グラフAの工程が
チェックアウトされています(左側のバーが濃い赤色に変化)

オーダーデータ 工程エディタ 複合チャート 工程マスタ					
	*工程コード	工程グラフ	正式名称	色	コメント
1	切断-1	A		E4CC98	
2	研磨	A		DC8EAA	
3	切断-2	A		E4CC98	
4	組立	A		C4B4FA	
5	検査	A		D4F6ED	
6	梱包	A		A3A4EA	
7	切断	B		E4CC98	
8	研磨	B		DC8EAA	
9	組立	B		C4B4FA	
10	検査	B		D4F6ED	
11	梱包	B		A3A4EA	ラベル貼付/注意事項

②完成品Bの梱包工程にコメントの...を押して設定しようとする
とチェックアウトするかを聞かれるので「はい」を押して
コメントキー:注意事項 コメント値:ラベル貼付 と設定します。
(直接コメントを入力すると入力後に自動でチェックアウトされる)
その際、梱包工程だけでなく工程グラフ単位で自動チェックアウトされます。
(左側のバーがなくなる)

チェックアウトの取り消しをしてみよう

User2のプロジェクトで「データスペースのチェックアウトを取り消し」を実行してみましょう。

User2



メニュー: ジュール(S) 工程エディタ(P) ツール(T) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

ツールバー: デフォルトルール

タブ: オーダーデータ | 工程エディタ | 複合チャート

完成品目: A 工程グラフ: A 最終工程: A#梱包

ワークフロー:

- 品目: 原料A-1 → 切断-1 (利用可能資源: 切断機 1, 前段取り時間: P01H, 製造時間: 50P/H)
- 品目: 原料A-2 → 研磨 (利用可能資源: 研磨機, 前段取り時間: P20M, 製造時間: 25P/H)
- 数量比: 3 → 組立 (数量比: 3, 利用可能資源: 組立ライ..., 前段取り時間: #1)
- 品目: 組立品A → 検査 (数量比: 2, 利用可能資源: 検査員, 製造時間: 8P/H)
- 品目: 梱包品A → 梱包 (利用可能資源: 梱包員, 製造時間: 4P/H)

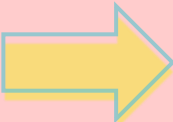
操作: 工程エディタの「データスペースのチェックアウトを取り消し」アイコン (Ctrl+Alt+C) をクリック

メッセージ: データスペースのチェックアウトを取り消し (Ctrl+Alt+C) データスペースのチェックアウトを取り消します

FLEXSCHE 警告ダイアログ:

! チェックアウトを取り消すとこれまでに編集した内容が失われます。よろしいですか?

ボタン: OK (選択), キャンセル



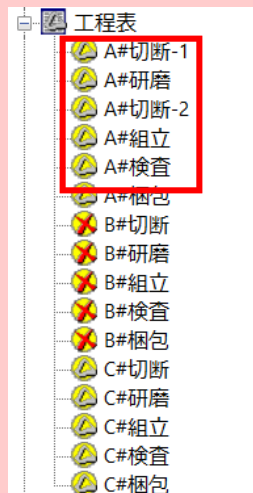
梱包工程に対して変更を加えた製造時間が元の設定になります

設定	
A#梱包	
利用可能資源 [1]	梱包要員
前段取り時間	
製造時間	3P/H (数量/時)
後段取り時間	
その他	
作業時間推計	

チェックアウトの取り消しを試みよう

チェックアウトを取り消した結果を確認してみましょう。

User2



工程グラフマスタ		オーダーデータ	
		フィルタ	
	*コード	色	
1	A	BF8BA3	
2	B	D8F2E7	
3	C	EF93AD	
+ *4		F1EABF	

工程マスタ							
工程グラフマスタ オーダーデータ 工程エディタ 複合チャート							
フィルタ -- なし --							
ソート -- なし --							
	*工程コード	工程グラフ	正式名称	セレクト	部品ファミリ	上位総称工程	コメント リンク委譲
1	切断-1	A					
2	研磨	A					
3	切断-2	A					
4	組立	A					
5	検査	A					
6	梱包	A					
7	切断	B					
8	研磨	B					
9	組立	B					
10	検査	B					
11	梱包	B					
12	切断	C					
13	研磨	C					
14	組立	C					
15	検査	C					
16	梱包	C					
+ *17							

Note

User1側でチェックアウトされているデータは引き続きチェックアウト状態で工程のコメントはチェックイン前なので反映されていません

サーバーでリスケジュールしてみよう

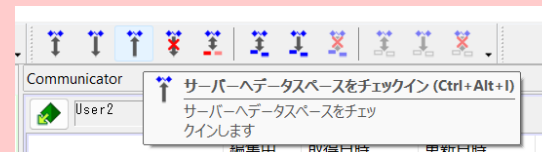
次にサーバーでリスケジュールされる様子を体験してみましょう。
(本入門ガイドでは手動でサーバーリスケジュールを実行する様子を体験いただきます)
はじめにUser2のプロジェクトで新規オーダーを追加してみましょう。

User2



オーダーデータ 工程エディタ 複合チャート						
フィルタ -- なし --						
	*オーダーコード	正式名称	*品目	*数量	セレクト	投入日時
4	N0003		B	20		
5	N0004		B	20		
6	N0005		B	30		
7	N0006		B	20		
8	N0007		B	25		
9	N0008		C	20		
10	N0009		C	10		
11	N0010		A	10		
12	N0011		A	30		
13	N0012		A	40		
14	N0013		B	20		
15	N0014		B	20		
16	N0015		B	30		
17	N0016		B	20		
18	N0017		B	25		
19	N0018		C	20		
20	test		A	10		

①オーダーデータに新たなオーダーを追加してみます
オーダーコード: test
オーダー品目: A
オーダー数量: 10
製造納期: 2020/10/8 00:00:00



②追加したオーダーをチェックインしてみます

オーダーデータ 工程マスタ 工程グラフマスタ 工程エディタ 複合チャート						
フィルタ -- なし --						
	*オーダーコード	正式名称	*品目	*数量	セレクト	投入日時
1	N0000		A	10		
2	N0001		A	30		
3	N0002		A	40		
4	N0003		B	20		
5	N0004		B	20		
6	N0005		B	30		
7	N0006		B	20		
8	N0007		B	25		
9	N0008		C	20		
10	N0009		C	10		
11	N0010		A	10		
12	N0011		A	30		
13	N0012		A	40		
14	N0013		B	20		
15	N0014		B	20		
16	N0015		B	30		
17	N0016		B	20		
18	N0017		B	25		
19	N0018		C	20		
20	test		A	10		
*21						

③無事追加されました

サーバーでリスケジュールしてみよう

チェックインした結果が問題なさそうなのでサーバーでリスケジュールをしてみましょう。

User2



リスケジュール設定

☐ ローカルでリスケジュールする

対象データのチェックアウト

☐ 全データ

☐ 全オーダーと全作業

☒ 現在チェックアウト中の作業のみ

☒ サーバーでリスケジュールする

スケジュールルール: スケジュールルール | デフォルトルール

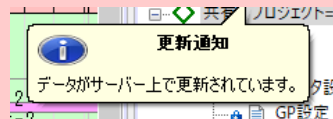
※ 全オーダーと全作業がチェックインされている必要があります

※ 編集中のデータは自動的にチェックインされます

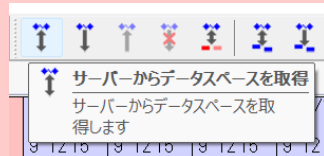
☒ 毎回設定を確認する

OK キャンセル

- ①リスケジュールボタンをクリックし、「サーバーでリスケジュールする」にチェックしてOKを押します
- ②サーバーでのリスケジュールが実行されて更新通知が届くのを待ちます



- ③リスケジュール結果を反映させるため「サーバーからデータベースを取得」します



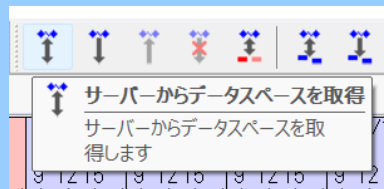
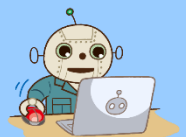
2020/10	10/04 (日)	10/05 (月)	10/06 (火)	10/07 (水)
	9 12 15	9 12 15	9 12 15	9 12 15
切断機 1		test N0010 切断-切断-	N0001 切断-1	N0001 切断
切断機 2		test N0004 切断-切断-	N0001 切断	N0001 切断
切断機 3		N0010 N0001 切断-切断-2	N0001 切断	N0001 切断
研磨機 1		test 研磨	N0004 研磨	N0004 研磨
研磨機 2		N0010 研磨	N0001 研磨	N0001 研磨
組立 1		test 組立	N0010 組立	N0010 組立
組立 2			N0010 組立	N0010 組立
伊藤		test 組立	N0010 組立	N0010 組立
小野			N0010 組立	N0010 組立
佐々木			test N0010 検査検査	test N0010 検査検査

- ④サーバー側でのリスケジュール結果が反映されました

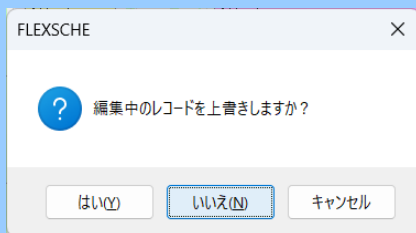
サーバーでリスケジュールしてみよう

サーバーでリスケジュールをした結果をUser1でも確認してみましょう。

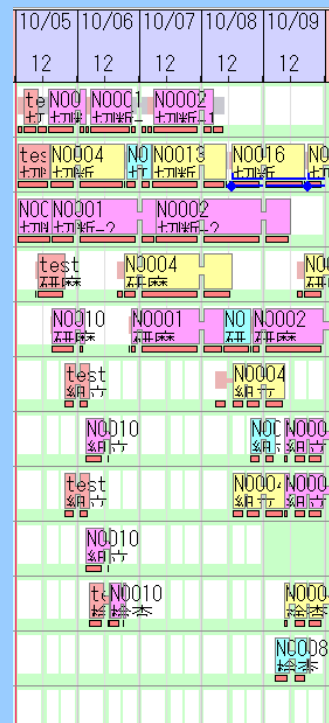
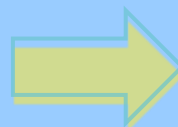
User1



①User1側にも更新通知が届いていることを確認し
リスケジュール結果を反映させるため
「サーバーからデータスペースを取得」する



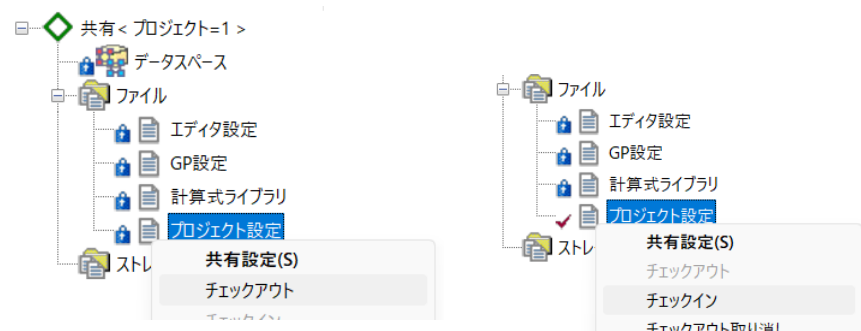
②編集中のレコードを上書きしますか?で「いいえ」を選択する



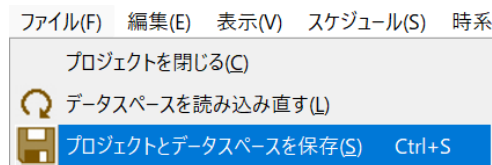
③User2と同様のリスケジュール結果が反映されました

プロジェクトの保存

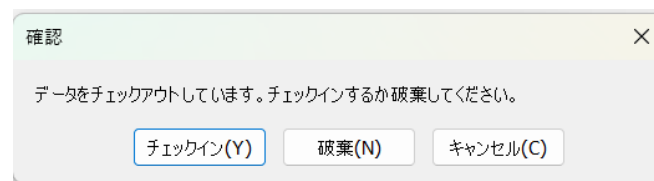
User1・User2ともにCommunicator用のプロジェクトを保存して終了しましょう。



パネルなどの表示情報を保存するために
Communicatorパネルから「プロジェクト設定」を
チェックアウト⇒チェックインします。
※この時、表示状態を取り込むかを聞かれます
が「いいえ」を選択します。



ファイル⇒「プロジェクトとデータを保存」
もしくはツールバーの  ボタンで保存します。



ファイル⇒「プロジェクトを閉じる」でプロジェクトを終了します。
この時、データがチェックアウトされているとチェックインするか
破棄するかの確認ダイアログが表示されます。
今回表示される場合は「チェックイン」を選択して終了しましょう。

Note

プロジェクト設定をチェックアウト⇒チェックインせずに終了すると
次回プロジェクトを開いた時にCommunicatorパネルやツールバーが表示されない状態に戻ってしまいます。

FLEXSCHE Communicatorの終了

サーバーのメンテナンスやシャットダウンのために停止させる場合は管理Webコンソールから行います。

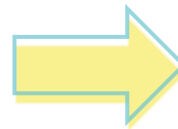
サーバーの起動と停止

Communicatorサーバーの稼働状態を表示/変更します。

サーバーの稼働状態	動作中	起動	停止
自動的に起動する	いいえ	変更	

管理者設定

登録情報	編集
パスワード	*****
メールアドレス	
SMTPサーバー	
テストメール送信	実行



サーバーの起動と停止

Communicatorサーバーの稼働状態を表示/変更します。

サーバーの稼働状態	停止	起動	停止
自動的に起動する	いいえ	変更	

稼働状態が「動作中」になっているので「停止」を押してサーバーを停止します

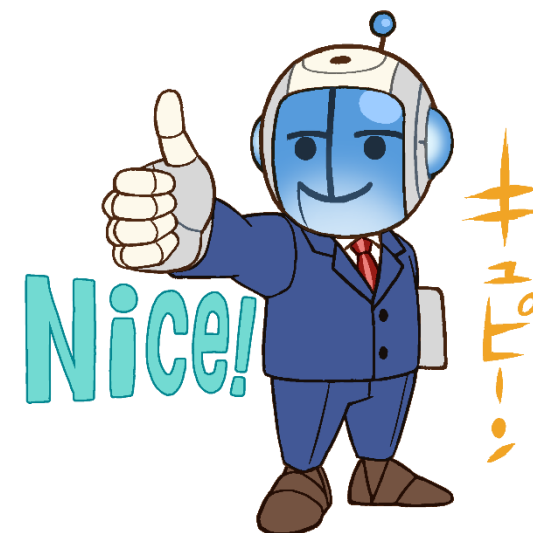
稼働状態が「停止」になり、無事サーバーを停止できました。

Note

FLEXSCHECommunicatorをアンインストールしたい場合には、コントロールパネルから「FSSetupCommJpn」を開き、「削除」を選択します

以上、FLEXSCHE Communicatorの基本的な機能を体験してみました。いかがでしたか？
感想や質問等をinfo@flexsche.com までお寄せいただければ幸いです。

なお、本書で紹介した内容は、FLEXSCHE Communicatorのほんの一部の機能に過ぎません。
FLEXSCHE Communicatorは今後お客様からの要望に応じてより充実したサービスへと発展していきます。
また、FLEXSCHE Communicatorを有効にご活用いただくために、フォロー・サポート体制もございます。
サービスの機能や使い方についてご不明な点がございましたら、お気軽にお問い合わせください。



Note

メーリングリスト、OpenDay など。
詳しくは以下Webページをご覧ください。
<https://www.flexsche.com/support/>

FLEXSCHE Communicator入門ガイド Version 25.0

2026年 5月発行
株式会社フレクシェ
〒140-0001 東京都品川区北品川1-19-5 コーストライン品川ビル2F
TEL: 03-6712-9549
FAX: 03-6712-9539
E-Mail: info@flexsche.com
URL: <https://www.flexsche.com/>

本マニュアルの著作権は、株式会社フレクシェにあります。株式会社フレクシェの文書による承諾を得ずに、電子的、機械的、光学的またはその他のいかなる形や手段によっても、本書の一部または全部を無断で複製、翻訳、伝送、写本することはできません。

本書の内容は、予告なく変更されることがあります。